

令和5年度 学校評価報告書【国立市国立第六小学校】

学校教育目標	よく考える子 なかよく助け合う子 元気でたくましい子	重点目標	よく考える子
--------	----------------------------------	------	--------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価	
					中間評価	最終評価				
よく考える子	児童の基礎的・基本的学力の定着	教員間の共通認識の構築	学ぶ楽しさを感じる児童の育成を目指し、研究授業を年間6回（全学年）実施し、講師の指導を授業に生かす。	教員自己評価の回答 「各教科のねらいを達成できた。」 達成できた：A 概ね達成できた：B 達成できなかった：C	/	B	研究授業や協議会での学びから、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりを共通認識することができた。国語の研究を通して他教科でも試行しようとしていた。教員間の相互授業観察も行われている。	研究授業だけではなく管理職が行う授業観察の機会に、全教職員がお互いの授業を見ることができるようになる。	研究授業は負担になっていないか。相互授業観察のような形が負担感なくできるのではないか。よい取組だと思う。先生の話し方や表情なども大事。	
		基礎学力の定着	朝学習の時間を中心に、東京ベーシック・ドリルを計画的に実施することで、既習事項の見直しをする。	東京ベーシック・ドリル（算数診断シート）の結果 習得の割合[平均正答率] 70%以上：A 60%以上：B 60%未満：C	C	C	校内事情により算数の習熟度別学習ができなかったことで、既習事項の内容を落としている児童へのフォローが不十分だった。	基礎・基本の定着を図るためにも、単元の重点化を図り、計画的に東京ベーシック・ドリル練習シートを実施していく。	小学校で基礎学力の定着を図るための工夫や手立てが必要なのではないか。算数だけではなく、得意なところを伸ばせるような視点も大切。	
		読書活動に対する意欲の向上	読書活動の充実を図る。（朝読書・読み聞かせ・読書旬間・おすすめの本の紹介・お話会）	児童への読書アンケート 「読書が好き」と回答した児童の割合 90%以上：A 70%以上：B 70%未満：C	/	A	読書が好きであると答える児童が多かった。借りる本の冊数は増えてきたが、限られた分野のものに留まってしまう傾向にある。	国語の学習で教科書で紹介されている図書を中心に、様々な種類の本に興味をもてるような声掛けを行う。	子供たちがICT機器を活用し先生方も上手に授業で使っている。反面、読書も好きだということは大事にしていきたい。	
なかよく助け合う子	育特の別充支実援教	教職員間の情報共有と指導の改善	特別支援コーディネーターを中心に校内委員会や生活指導全体会の充実を図る。	学校評価（教員自己評価）の回答 「情報の共有と指導の充実を図ることができた」	/	A	校内委員会での情報を一本化し、共有することができた。また、生活指導全体会でもそのデータをもとに、児童の様子や支援方法について共有でき、指導に生かすことができた。	時間を有効に活用するため、内容の事前告知や各会の目的を明確にして意見交換することで指導の改善を図る。	特性のある児童の情報を細かく共有することで、教師が授業を行うときに配慮できる。学ぶことの楽しさにつながっている。	
		豊かな心の育成	いじめの未然防止・早期解決	人権尊重の理念に基づき、道徳授業の充実に向け、集団の中での温かな人間関係の構築を図る。	ふれあい月間の児童への調査結果 （いじめが疑われる児童への対応）	A	A	アンケートをもとに聞き取りを行うことで即座に対応を行うことができた。対応や観察が必要な件についても、現在は解決している。	引き続き、日常的に教職員間で情報共有を行い、対応していく。	学び合う力が必要な時代。そのために安定した学級・学年は必須である。他者を認める心をさらに育んでほしい。
		環境教育の充実	地域の人材を積極的に活用し、国立の自然を生かした学習の充実を図る。	教員自己評価の回答 「外部講師や自然環境を取り入れた環境教育を計画通り実践できた。」	/	B	総合的な学習の時間などコロナ禍以前並みに外部人材の活用することができた。体験学習を通して学びを深めることができた。	カリキュラムマネジメントの視点を外部人材を活用し、実感を伴った学びにつなげていく。	手芸クラブに学校ボランティアで参加させてもらっている。これからも広げていってほしい。	
元気でたくましい子	心身の健康の保持増進	健やかな心と体の育成	体育的行事や体育の授業を通じて、心身の健康の保持増進を図る。	体力調査結果 （東京都と本校の体力合計点の比較） 都の合計点を上回った：A 都の合計点と同等：B 都の合計点を下回った：C	B	B	16項目中6項目で都平均を上回る。反復横跳びの得点は5年生で伸びているが、1～4年生は得点が低い。立ち幅跳びでも2、5年生を除いて東京都の平均値より下回る結果となっている。	瞬発力、俊敏性を高めるため、メディシンボールやラダー等を使用したすばやい動きが必要な運動を授業で取り入れる。	好き嫌いに左右されるものもあるが、みんなが楽しみながら得意なところを伸ばせるようになるといい。	
			保護者へのアンケート[外部評価] （「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合） 90%以上：A 70%以上：B 70%未満：C	/	B	保護者アンケートでは、「とてもそう思う」「そう思う」が70%の回答であった。一方「分からない」との回答が17%あり、本校の健康保持増進の取組が広く伝わっていない現状がある。	児童自身に運動を行う目的を伝えることで保護者との会話のなかで伝わるようにする。また、学校便りや1人1台端末も活用して本校の取組を伝える。	子供の言動から自分なりのフィードバックができていく。次につなげようとする前向きな姿に成長が見られる。		

達成状況の指標 A:100%～90% B:89.9%～70% C:69.9%～0%